

神官や酒造家のおもてなしに博士感激
探訪牧野博士の歩いた道 ナンジャモンジャ（千葉県神崎町）



ナンジャモンジャと呼ばれる樹はヒトツバタゴ、カツラ、バクチノキ等地域によって様々あるようです。それらのなかで、牧野博士が「本尊のナンジャモンジャ」、昔から名高い正真のナンジャモンジャ」と呼ぶ樹があります。この本尊のナンジャモンジャを知らない人はナンジャモンジャを語る資格のない者じゃ。この本家本元のナンジャモンジャを見物に一日の清遊を同地に試みるもまた一興ではないかと思う。東京の両国駅から優に日帰りに行くことの出来る「ところだ」と「ナンジャモンジャの真物と偽物」（「牧野植物随筆」講談社学術文庫）で記されたナンジャモンジャはドンナモンジャイ？と高知から行って参りました。千葉駅からは10駅目、JR成田線の下総神崎（こうぎき）駅下車徒歩約20分、利根川沿いの小高い森に鎮座する神崎神社の社殿の脇にナンジャモンジャこと大きなクスノキは高知では特に珍しい

ものではないのですが、「このクスがどうしてこの辺でそう珍しく認められたか」というと、一体この地方は暖地でなくかつこの利根川の流域は土地が低く湿っている、わが国西南地方におけるようにそう頻々とその大木を見かけないから特に注意を惹いたものではないかと想像する（同随筆）と牧野博士は解説しています。博士が再び神崎を訪れた際には、神崎神社の神官がこの「ナンジャモンジャ」の神木に接近して建てた社務所に特別に招待され、「わざわざ山下の酒造家寺田家（主人は憲氏）から結構な夜具を運び込み、一夜をその神木一間位の隣りに近く宿らしてくれた。私はまことに有難かつ恐縮し謹んでその優遇を感謝したことがあった（同随筆）そうでした。牧野博士をもてなした寺田憲氏は歌人の佐佐木信綱に学び、長塚節や伊藤左千夫と親交があったことが、神崎神社にある憲氏の遺詠の歌碑（昭和53年建立、受恩後生土屋文明謹識）から分かりました。ひよつとしたら牧野博士をナンジャモンジャの樹へと案内したのは憲さんだったかもしれないね。現在もこの酒造家（寺田本家）は神崎神社の森と接しており、敷地の庭にはクスノキが育っていました。高知に宅急便で送つてもらいましたが、いやあ、低精白の純米自然酒「香取」、おいしかった。お酒の発酵を醸す微生物の「どんなもんじやい」という声が聞こえたような気がしました。（市川浩司）



豊かな自然、明るい未来を、
サプライチェーン・ロジスティクスで



郵船ロジスティクスグループは、持続可能な未来に向けて、地域の皆さまとともに歩みます
https://www.yusen-logistics.com/jp_ja/



牧野人

vol.7 手づくりらんまん、春爛漫特集！

*2024年3月発行 *企画・制作・発行・デザイン／朝ドラ「らんまん」顕彰会
〒789-1201 高知県高岡郡佐川町奥の土居 市川方 kawazumakeruna@bell.ocn.ne.jp

おめでとうございます 日頃の地道な活動が、花を咲かせました！
牧野公園はなもり C-LOVE 手づくり郷土(ふるさと)賞に認定
国が表彰「牧野富太郎博士への思いを紡ぐ公園づくり～みんなで育てる牧野公園～」(佐川町)



（左から）佐々木淑充四国地方整備局長、田村勇勝氏、山崎廣氏、片岡雄司佐川町長

喜びのはなもりC-LOVEの皆さん



牧野富太郎博士生誕祭での苗の販売

牧野公園で育った植物の種の梱包

除草作業

国土交通省の令和5年度「手づくり郷土賞」に選ばれた牧野公園はなもりC-LOVEへの認定証授与式が2月6日、佐川町内名教館で開催されました。この賞は昭和61年から始まり今回で38回目。自然、歴史、文化等地域の資源を活かし、その魅力を創出している団体を表彰するもので、全国から28件の応募があり、同クラブなど13件が選ばれました。佐々木淑充四国地方整備局長の祝辞の後、謝辞を述べた同クラブ代表の田村勇勝氏は、佐川町が平成26年に牧野公園を桜だけでなく牧野富太郎博士が愛した山野草も楽しめる公園にしようとして10年間のリニューアル計画を立ててからの経緯を説明。「次第に仲間が増え、今では四季を通じて400種類以上の牧野博士ゆかりの植物が楽しめる、県内外から観光客や研修で多くの方が訪れる公園となった」「さらなる成長を目指し、これからも仲間と一緒に楽しく活動を続けていきたい」と述べました。苗の購入に頼らず種から育てる公園づくりを同クラブの中心になって指導してきた山崎廣氏は「今までの活動が国の機関に認められたことは大変うれしい。やりがいがあります」と喜びを新たにしました。また、牧野博士に因んだ自然植物公園整備を佐川町に提唱してきた牧野植物園アドバイザーの稲垣典年先生は「高知に帰ってきて50年以上過ぎたが、はなもりC-LOVEがこまめになれたのが本当にうれしい」と笑顔で応えてくれました。牧野博士への思いを紡ぐ公園づくり、楽しくやっていきましょう！牧野博士、植物に感謝！（市川浩司）



佐川小学校創立150周年おめでとうございます。

2024年に創立150周年となる佐川小学校で、2023年12月2日に開催された記念行事には、関係者約1000人が集まりました。1874年に名教学舎として開校した様子は、朝ドラ「らんまん」でも描かれていましたが、その後名称も佐川尋常小学校から佐川小学校へと移り変わりました。

NHK連続テレビ小説「らんまん」の主題歌「愛の花」の合唱。「らんまんじゃ〜」の掛け声で、一斉に放たれた色とりどりの風船。（環境に優しい風船の中には花の種が入れられており、辿り着いたそれぞれの場所で、かわいい花を咲かせてくれることでしょう）子ども達の心にも新たな種がまかれたような記念すべきセレモニーとなりました。



斗賀野小学校5年生が発表

「牧野富太郎の名言の意味」担当の児童達
は、「人間死ぬまで勉強です…一つのことを
一生かけて勉強しても全てでは分かりきら
ない。自分で終わりを決めず、学び続け
るのが大切」、「自然は大きい：牧野富
太郎さんが調べきれないぐらい、自然が
大きい」、「好みに理由なんてない：理
由が言えないくらい植物が好き」と発
表し、訪れた父兄も感心しきりでした。

なお、高知市立自由民権記念館では、牧野博士と親交の深かった田村利親先生の業績を紹介する「田村利親と土佐の柑橘」展（主催／特定非営利活動法人地域文化計画）等が開催されています。（市川浩司）

(市川浩司)

[illegible]